

日刊 動労千葉

84. 11. 24

No. 1800

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六・公衆）〇四七二（22）七二〇七

第8回労働学校に 参加して感想文募集



動労千葉労働学校・第8回講座は、11月17日、社会運動家・浜田俊郎氏を講師に、「ロシア革命と労働者階級」と題して開催された。
受講生から提出された「レポート」を掲載する。

生き生きとした ロシア革命に感動

今回は、「ロシア革命と労働者階級」について学んだ。社会運動家・浜田俊郎氏から伝えられたロシア革命は、ものすごく生き生きとしたものだった。

一九〇五年一月、ペトログラードで、労働者とその妻・子供たちは、人並みの食糧と生活と平和を求めてデモを行った。時は日露戦争の真只中、ロシア皇帝に人民の切実な要求を請願したデモを待ちうけたものは、パンと平和ではなく、専制ツァーリの銃だった。軍隊は容赦なく人民に銃弾をうちこみ、大量の血が流される。（「血の日曜日」事件）

その事件をきっかけに、ロシア全土に革命の炎が燃えあがった。有名な戦艦ポチョムキンの反乱をはじめ、ロシアの労働者、農民、そして闘いは軍隊をもまきこんで燃えあがる。

いったん勝利した一九〇五年のこの第一次革命は、残念ながらその後の反革命にまきかえされてしまったが、その後の凶暴な専制の弾圧や民間右翼「黒百人組」等による労働者・人民への襲撃に対し、不屈に闘いぬき、来るべき第二の革命の勝利にむけて労働者・人民を武装し指導しぬいたのは、レーニンが指導する「ボルシェビキ」（当時、ロシア社会民主党内の革命派、後にロシア共産党）だった。
レーニンは、ツァーリの弾圧でシベリア流刑や亡命を余儀なくされながらも国内の同志たちと連絡をとり、精力的に革命

を準備していった。

「妥協」を排し、あくまでも 「人民の武装」にかけたレーニン

人民の犠牲のうえにおし進められた第一次世界大戦も終りに近づき人民も兵士も疲れ苦しみ、厭戦気運が蔓延していた一九一七年、二月の国際婦人デーを記念して、婦人たちは「パンと平和」を求めてデモを行う。

この事件をきっかけに、再びロシア全土に革命の炎がまきあがる。三月末、ロシアの労働者・人民はついにツァーリを打倒し、新しい社会のために「労働ソビエト（革命評議会）」をつくり、その数と力は爆発的に増大していった。（2月革命Ⅱ第二次革命、ロシア暦では2月）
だが、その革命をブルジョアジー共は、中途でおしとどめ、かすめとり、「連立政府」なる妥協的形態におしとどめられてしまふ。ボルシェビキ以外のすべての党・勢力がこの「妥協の路」に引きこまれていたのである。

「連立政府」のうち出した政策は、「戦争の継続」だった。一方、そのような妥協に満足しない労働者・農民・兵士たちは続々とソビエトに結集し、政府との間では「二重権力状況」といわれるまでに成長していった。

ロシア革命が決定的な情勢に近づきつつあると判断したレーニンは、四月になり、亡命先のスイスから身の危険をおか

ものすごく自信と確信がわいてきた

この講座を受講して、私は強い衝撃を受けると同時に、ものすごい自信と確信がわいてきた。

革命期―激動期には、敵と味方がギリギリとせめぎ合い、人民も真二つに分岐し、国内においてガンガン激突しあいながらしのぎをけずり、国内戦争をやりぬく。ロシア革命が全くそうであったように、今日のあらゆる問題もそのような立場に立たない限り、本当の労働者や農民の勝利はやっぱりありえないと思った。

国鉄での動労千葉と動労「本部」革マルの攻防、三里塚での空港反対同盟と条件派・脱党派との厳しい対決、このこと

してペトログラード（ロシアの首都）へ帰ってくる。指導の先頭にたったレーニンはボルシェビキの再武装・指導強化を通じて、労働者・人民に、「連立政府を拒否して全ての権力をソビエトに！」「妥協を排し、武力革命で労働者・農民・兵の民主的政権をうちたてよ」と訴え、組織化していった。

泥沼にたち至っている戦争、破綻、その一方におけるボルシェビキの前進に追いつめられた連立政府や軍部反動などが一斉にボルシェビキ弾圧を開始し、また軍部の反革命反乱などが起こる。しかし、ボルシェビキは不屈・非妥協に戦術を駆使してあくまでも「労働者・農民・兵の武装した力によってのみ革命は勝利する」方針と指導を貫き、最後の勝利の革命Ⅱ10月革命（第三次革命）へと着実に準備を進めていった。

情勢のつまりと準備の完了をもって、満を持したボルシェビキの指令一下、労働者・人民・兵士は11月6日（ロシア暦では10月24日）未明、一斉に武器をとり武装蜂起を決行、一日にして首都ペトログラードを制圧、翌日の「全国労働者・兵士ソビエト大会」を経て8日には「労働政府の権力樹立」を宣言し、2日遅れてモスクワでも武装蜂起が勝利、こうしてロシア全土が解放され、ただちに戦争の終結、土地の解放、生活の保障、等を中心に、多くの困難をのりこえソビエト国家の建設へと前進していったのである。

はまさしく革命に至る必然的なものだ。

ここをあいまいにごまかしたり、避けたりの道を行き、敗北させることに通じるのだという事が実感できた。

そして、第三次帝国主義世界戦争の足音が近づいてきている今日、三里塚―国鉄決戦をギリギリと闘いぬくわれわれ動労千葉の労働者は、ロシア革命でくつきりと証明された「労働同盟の勝利」という事実と教訓を今日に徹底的に生かし切り、日本帝国主義Ⅱ中曽根打倒の最先頭にたたななくてはならないとあらためて決意を固めた。（おわり）

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！